

歯に感謝の気持ち

荒井陸人君（上町）



6月4日(日)に、宇都宮市で歯の衛生週間に関する作品表彰式が行われました。作文コンクールの中で見事特選に輝いた荒井陸人君(上三川小学校3年生)にお話を伺いました。

作文での受賞は、「今回の作品が初めてです。」と話す荒井君。『ぼくには二十四のサポーターがいる』という題で、日ごころから食事、運動、勉強など二十四の歯に助けられ、支えられているという内容のことを書きました。

題にもなった『サポーター』はサッカーのワールドカップが話題になっていて、作文を書くときに思いついたそうです。

荒井君は、運動をするのが大好きで、幼稚園のころはサッカーを、現在

今日の輝ける星

はテニスをしています。また、しらすぎマラソンにも毎年出場するほどスポーツ万能な少年です。

食べ物は、特に好き嫌いがなく何でも食べます。食べた後は、大事な歯を、感謝の気持ちで朝、昼、晩と歯磨きをしています。寝る前には歯の磨き残しがないかを確認しているため、現在もむし歯は一本も無いそうです。

受賞した作文は、ラジオで放送するため録音をしました。が、「読んでいるときは、とても緊張しました。」と慣れない場所での朗読のことや、表彰されたときは、とても嬉しくて、「賞状は宝物にしようね。」とお父さんお母さんと話したことなど、きちんと答えてくれました。

特選をとった作品は、現在、小学校にポスターと一緒に展示されており、校長先生の話によると、「足を止めて、作文を読んでいる生徒がたくさんいますよ。」とのこと。

勉強も得意で、特に「算数の計算が好き」という荒井君の将来の夢は、「丁寧に教えてくれる大好きな先生がいるので、学校の先生になりたいです。」と力強く夢を語ってくれました。

かぼちの農産物

広報かみのかわ 8月号 上三川町役場 企画課情報広報係

T329-0696

栃木県河内郡上三川町しろとぎ 1丁目1番地

0285(5)69117

今月の農産物は、緑黄色野菜の代表、かぼちゃです。

J Aうつのみやかぼちゃ専門部会の部会長を務める野沢義光さんにお話を伺いました。

野沢さんのお宅では、30aの畑にみやこ、イーティ、栗ゆたかという品種を栽培しています。畑一面に広がった葉をかきわけていくと、大きく育ったかぼちゃがいくつも顔をのぞかせます。野沢さんに、おいしいかぼちゃを作るコツを尋ねると、「なんと言っても完熟収穫ですね。開花後45から50日ぐらいで実入りするので、この日数を過ぎてからの収穫を守ることが大事なんです。」と話してくれました。昔は、収穫時期の見極めに、かぼちゃに開花の日付を記入したラベルをつけていたこともあったそうです。

また、最近では、カットされて店頭で並ぶことが多いので、見栄えもより重視されます。地面に接している面が、日光に当たらないと黄色くなるので、全体



わが町の農産物



かぼちゃ編

を緑色にきれいに仕上げるために、一個ずつかぼちゃの下にシートを敷く手間の作業もあります。このような地道な努力が、消費者に喜ばれるかぼちゃ作りにつながっているようです。

箱詰めされる前には、かぼちゃ磨き機というブラシがついた機械に通され、一段とつやが良くなったかぼちゃは、最盛期には、日に60から70箱（1箱10kg入り）が出荷されます。重い箱詰め作業ですが、「野沢さんのかぼちゃはおいしい」という声を聞くことが、作っていて良かったと思える瞬間だそうです。

今後の目標は、「大勢の人に、この栄養豊富なおいしいかぼちゃを食べてもらいたい。特に若い人たちに食べてほしいですね。あと後継者育成ですね。」と話す野沢さん。

以前は、県内一のかぼちゃの産地だった上三川町。野沢さんを初めとする部会の人数は20名。これからも、上三川産のかぼちゃを守り続けてほしいものです。



この印刷物は古紙配合率100%の再生紙と環境にやさしい大豆油インクを使用しています。